

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 廿日市市立宮島小学校・宮島中学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 739-0588

広島県廿日市市宮島町779-2

E-mail miyajima-e-soshiki@hatsukaichi-edu.jp

miyajima-j-soshiki@hatsukaichi-edu.jp

Website _____

児童生徒数 男子 56名 女子 56名 合計 112名

児童・生徒の年齢 6歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

今年度は、昨年度の成果と課題をもとに、ESDの視点を生かした学びを通して、宮島を誇りに思い、宮島の未来を創る児童生徒を育成したいと考えた。

研究主題に迫るため、次の3点に研究視点を置き、取り組んだ。

- ①ユネスコスクール実践の場としてのESDの充実
- ②自己有用感の育成による、自分・仲間・学校・地域・世界への愛着の育成
- ③各教科等での伝える力（思考力・判断力・表現力等）の育成

① ESDの充実に係わる活動

- ・9年間の本校での学びを整理し、企画・実践・見直しを通して、次年度へつなげるPDCAサイクル（ESDカレンダー等）
- ・ESDカレンダー等により学校としての取組の見える化を図り、教職員間だけでなく、生徒・保護者・地域と取組を共有
- ・豊富な地域の資源や人材の活用（たのもさん、宮島踊り・杓子踊り、松明づくりなど）
- ・地域の実地調査や世界遺産やラムサール条約登録の地ならではの活動（「課題発見・解決学習」「異文化間協働活動」）

② 自己有用感の育成に係わる活動

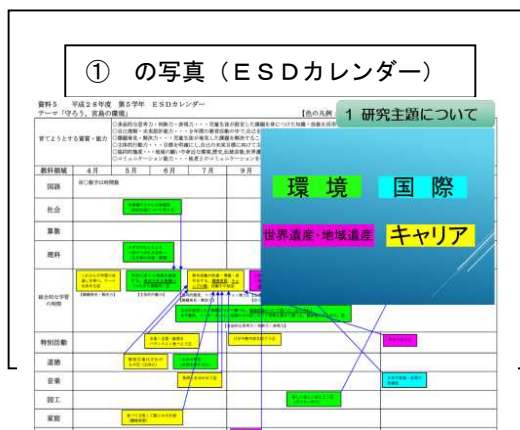
- ・互いの良さを認め合う活動（日々の活動，行事，ボランティア活動，地域行事など）
- ・学びを通して，宮島再認識（地域を愛する心の深まり）
- ・授業や行事での関わり合い，学び合い，高め合いの場の設定（学年内，異学年，地域の人と）

③ 伝える力（思考力・判断力・表現力等）の育成に係わる学習

- ・授業において，伝え合う場の設定（思考力・判断力・表現力等の育成）
- ・ディベート・ICT等の活用・体験的活動
- ・「課題発見・解決学習」「異文化間協働活動」
- ・単元開発と実践交流による学び合い
- ・発達段階に応じた「伝える力」の育成

8年・9年	理由や根拠を明確にして論理的に伝えることができる生徒
7年	理由や根拠を明確にして伝えることができる生徒
5年・6年	筋道を立てて伝えることができる児童
3年・4年	理由を付けて伝えることができる児童
1年・2年	順序に沿って伝えることができる児童

- * 授業の中で，「伝える場」を設定する。毎時間が望ましいが，教科や単元によって毎時間の設定が難しい場合は，単元全体の中で必ず「伝える場」を設定する。
- * 主語・述語を意識して話したり書いたりさせるようにする。
- * 発達段階に応じた「伝える力」を意識して取り組む。
- * 話型の表を各クラスに掲示して活用する。
- * 書く力を鍛える。・視写—毎週月曜日の朝学の時間を活用する。
・日記—毎日書く習慣をつける。（連絡帳等の活用）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境		<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動		<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉		<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク		<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等		<input type="checkbox"/> 17. その他 ()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(「伝える力」)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(地域の行事・お祭り)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

教科書, 図書の本, インターネット, 観光協会からのパンフレット, 自作資料, ゲストティーチャー (伝統工芸師など) 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

本校における9年間のESDの取組には、主に次の4つがあり、「総合的な学習の時間」（小学校1・2年生では「生活科」）を軸に、各教科等と関連を図り横断的に行っている。

- (1) 世界遺産・地域遺産教育 [地域の伝統文化学習・宮島学習・ボランティアガイドなど]
- (2) 環境教育 [海辺の生き物調査・植生復元活動・宮島水族館や広島大学との連携など]
- (3) 国際教育 [外国人観光客との交流・宮島ボランティアガイド(英語)など]
- (4) キャリア教育 [2分の1成人式・小中合同野外活動・職場体験学習など]

これらの取組を通して、世界遺産「宮島」の豊富な地域の資源や人材、環境を生かし、児童生徒の学習の充実を図っていく。また、「学ぶ」だけでなく、宮島の世界遺産、文化遺産、伝統、自然環境等をどのように守り、未来へ残していくか、多面的・総合的に考え、主体的に行動していくことを課題意識とし、取組を続けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、各学年あるいは複数学年合同により、地域色を生かした系統的な指導を行っている。学習したことを運動会や文化祭などで発表し、地域にも還元している。継続的な取組とすることで、子どもたちも「自分たちも3年生になったら『神鴉伝説』のオペレッタをするんだ。」「早く中学生になって英語ボランティアをしてみたい。」など、見通しと意欲を持つことができている。また、本校の9年間の学びのつながりを全教職員が共有し、自分の言葉で語るができる手立てとして、生活科・総合的な学習の時間の「学習系統表」を作成し、ESDカレンダーと合わせてESDの「見える化」を図った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

- (1) 単元ごとにつけさせたい力を明確にして取り組めたか。
————→ 教員アンケート等
- (2) 学びを通して自己有用感の高まりがあったか。
————→ 児童生徒アンケート等
- (3) 伝える力の高まりが見られたか。
————→ 授業の振り返りや作文等

今年度の広島県「基礎・基本」定着状況調査における意識調査では、「自分の住んでいる地域が好きです」と回答した児童・生徒は、5年生では、90.9%、8年生では100%だった。また、廿日市市で毎年実施されている、児童生徒の意見交流会「ボイス2017」で、9年生の生徒は、ボランティアガイドで、他者との関わりを通して「宮島の良さ」を再認識し、誇りを持って「宮島は私の故郷です」と伝える発表をした。7月に実施した「宮島アンケート」結果によると、宮島が好きで、宮島の自然や環境に興味があると回答した児童生徒の割合が、8割を超える一方で、「将来宮島で生活している」と回答した児童生徒の割合は3割強であった。「宮島に住んでいない」と答えた児童生徒の理由には「将来発明家になって世界で活躍しているから」や「不便だから」などがあった。利便性に勝る地域の資源や人材、環境を生かし、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進をしていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

8月2日(水)に開催された「第61回全国特別活動研究協議会広島大会」において、「特別活動とESD」についての実践発表を担当した。宮島小・中学校で取り組んでいる「系統的な取組」や「地域との連携」などに焦点を当てながら、「生徒指導」と「研究推進」に関することを中心に発表した。小中一貫教育校としての本校の強みと、地域の行事や人々と連携しながら活動を続けている学びの伝統について、参加者から大いに共感していただくことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

「チャレンジ体験 in 宮島」で、廿日市市の吉和小学校3・4年生と一緒に、氏神祭に参加し、おみこし担ぎを体験している。(地域・市教委)
3年生は、1・2年生の生活科の授業を発展させて、1・2・4年生と合同で、「たのも船作り」を行っている。(地域・市教委)
4年生は、地元伝統工芸士のご指導のもと、「宮島彫り」の製作を体験している。5年生は、地元陶芸家のご指導のもと、「宮島土鈴」の見学と製作を行っている。(ゲスト・ティーチャー)

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

8月29日に開催された福山市立鞆小学校・鞆中学校合同研修会において、本校のユネスコスクールとしての取組等について発表した。プレゼン作成では、これまでに作成した「生徒指導」と「研究推進」の取組をベースとしたものに加えて、これからユネスコスクールに加盟する予定である両校にとって参考となるよう、「ユネスコスクール」についての説明や加盟手続き等も盛り込んだ。これから小中一貫教育校となり、ユネスコスクールとして取り組む計画である両校にとって、「具体的な事例を示してもらえたことやユネスコスクールについての説明を聞くことができ、大変勉強になりました」と喜んでいただいた。今後も、両校と連携していけたら、お互いにとって大変有意義であると感じた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

芸能保存会の佐伯様、山村様のご協力で三味線の学習をしている。4月から三味線の学習を始め、毎年、9月の運動会と12月のもちつきの際に演奏をしています。芸能保存会の方には、宮島踊り・杓子踊りを丁寧に教えていただいている。9月の運動会で、6年生の三味線、鎌田様の太鼓、菊池様の歌にあわせ、全校児童・生徒が、地域・保護者の方とともに踊っている。12月のもちつきや松明づくりのときにも、保護者・地域の方に大変お世話になっている。このように、地域の特色を生かした小学校時代の学びがベースとなり、中学校での学びの発展・変革へと繋がっていく。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程）

来年度も、今年度同様にESD「総合的な学習の時間」（小学校1・2年生では「生活科」）を軸に、各教科等と関連を図り横断的に行っていく。世界遺産「宮島」の豊富な地域の資源や人材、環境を生かし、児童生徒の学習の充実を図っていく。また、「学ぶ」だけでなく、宮島の世界遺産、文化遺産、伝統、自然環境等をどのように守り、未来へ残していくか、多面的・総合的に考え、主体的に行動していくことを課題意識とし、取組を続けていく。

今年度開発した単元で、「課題発見・解決学習」を行う。

全体研修は、年に2回行い、小学校・中学校ブロックでそれぞれを担当する。授業研後も必ず事後の研究協議を行い、今後の授業のあり方について検討し、次へのステップとする。「課題発見・解決学習」の単元開発を行い、長期休業中に交流をする。

「学校に行こう週間」に合わせ、「授業を見合おう週間」を設定する。

全クラスで授業を公開し、教師の授業力向上とともに、全児童生徒の意識を高め、伝える力（思考力・判断力・表現力等）の育成に資する。（参観日と兼ねる。）